



【石鎚森の学校】VOL.11
 2015年秋号
 発行日 2015年10月
 制作 NPO法人 石鎚森の学校
 〒793-0062 西条市西田甲797番地
 Tel & Fax 0897-52-5275
 URL http://ishizuchi.net/

二の鎖元に環境配慮型トイレ完成!!

昨年11月20日、石鎚山の二の鎖元に、待望の環境配慮型トイレ・休憩所がオープンしました。二の鎖元は、西条市側の登山口・成就からの登山道と久万高原町側の登山口・土小屋からの登山道が出合う地点、標高1820メートルです。便器数は男性用大1、小2、女性用が3。休憩所は避難小屋の機能を有し、積雪時には2階の窓から出入りできるように梯子が設置されています。昨シーズン雪山に登山した人々から、小屋ができて安心感が増したと、喜ぶ声が聞かれました。



5月23日啓発登山セレモニーは法螺貝でスタート



新設された環境配慮型トイレ・休憩所

生物などによって汚物を分解するタイプの土壌処理方式が採用されていること。基本的な処理に電力がかからず、設置後の故障が少なく、維持管理費用が比較的コストであるため、高山におけるトイレが多く採用されています。もう一つの特徴が、維持管理のためにチップ制を導入したこと。利用者は1回あたり100円の協力金またはクーポン券を投入するようになっ



石鎚山の山頂風景

二の鎖元、環境配慮型トイレ完成!!

と、平成22年に愛媛県山岳連盟をはじめとする登山グループ・宿泊施設・地元で活動するNPOなどによって「石鎚山トイレ問題検討委員会」が発足。現状の把握とともに、先進地の情報収集、より多く

ほど熱く語りました。トイレ完成までを振り返ると、平成22年に愛媛県山岳連盟をはじめとする登山グループ・宿泊施設・地元で活動するNPOなどによって「石鎚山トイレ問題検討委員会」が発足。現状の把握とともに、先進地の情報収集、より多く

と、平成22年に愛媛県山岳連盟をはじめとする登山グループ・宿泊施設・地元で活動するNPOなどによって「石鎚山トイレ問題検討委員会」が発足。現状の把握とともに、先進地の情報収集、より多く

ご支援ありがとうございます

石鎚森の学校は10年目を迎えました！この新聞で紹介させていただいた活動は、皆さまのご参加・ご協力ならびに、会員の皆さまの会費・寄付金などによって支えていただいております。今後ともよろしくお願いたします。新規のご入会もお待ちしております。

正会員95名/年会費5千円
 賛助会員85名/年会費3千円
 団体会員7団体/年会費3万円
 (平成27年8月末現在)

団体会員様(順不同)
 セキ(株)、山のボランティアネットワーク、
 (有)石鎚観光白石ロッジ、玉屋旅館(有)、
 日の出屋旅館、星企画(株)、(株)愛媛銀行

~鎖がつなく感謝のキモチ~ 鎖プロジェクト、成功! 平成27年8月9日(日)

石鎚山の自然と魅力を次世代の子供たちへ継承する機運を喚起しようと、石鎚山開山1330年、石鎚国定公園指定60周年記念事業として、石鎚山のシンボルである「鎖」をモチーフにエコテープで作った鎖を成就社から山頂までつなくビッグプロジェクトが催行されました。テープは自然に分解される素材で作られ、シカなどによる樹木の食害を防ぐために使われているもの。このテープを約67ヶ所にカットし、西条市内の小・中学生約9千人が「石鎚山への感謝」「自然を守っていく想い」「自分の目標」などを書き込みました。「いつも台風から守ってくれて、ありがとう」「美味しい水をありがとうございます」など、多くに石鎚山の感謝がつけられました。このテープを鎖状にして、山頂までつなごうというわけです。

当日は好天。愛媛県主催の環境啓発登山も行われ、合わせて約130人がグループに分かれて持ち場での鎖敷設にまい進。子どもたちの想いが込められた白い鎖が、大人たちによって着々と頂上へ伸びていきます。

二の鎖元では、土小屋からの参加者が加わって総勢約200人に。新たに建設されたエコトイレ・休憩所では曾我部事務局長の進行で啓発登山のセレモニーが行われました。休憩後、さらに頂上へと鎖を導きます。そして、頂上では愛媛県・中村時広知事、西条市・青野勝市長、久万高原町・高野宗城町長、そしてなんと愛媛県ゆるきゃら・みきゃんが加わり、子供たちとともに、最後のテープをつなげました！テープに想いを託した子どもたち、鎖をつないだ参加者たち、応援してくれた皆さんの、「石鎚山の自然と文化を大切な宝として引き継ごう」というキモチが一つになったと感じました。

「西条市内の子供たちの夢や希望、石鎚山への感謝のキモチを記入した鎖の輪を、中村知事を始め多くの皆さんの協力を頂いて成就社から頂上まで繋げる事ができ、本当に嬉しかったです。これを機会に石鎚山をもっと知って、好きになってもらいたい。そしてみんなが雄大な自然を未来へ繋いでいくキモチを持ち続けてもらえたらと思います」と、実行委員長・石鎚神社権宮司の十亀博行さんも笑顔。お山にも感謝のキモチが伝わったのではないのでしょうか。



山頂で記念写真! その後、鎖を回収しながら下山、無事終了しました

2015夏 ブナの森の自然観察会

平成27年8月16日(日)

諸事情により、お盆の期間の実施となり、どの程度のご参加があるか不安だった7月8月に入ると次々とお申込みがあり、これまでに最も多い40人のご参加者とスタッフ、総勢45人で行うことができました。石鎚国定公園指定60周年の記念の年ということで、石鎚山関連の話題が多く報道されたからでしょうか。お盆

休み期間中ということでも、お申込みしやすかったからでしょうか。多くの皆様にお山の自然に触れていただく機会を得て、スタッフもますます張り切って臨みました。

しかし、数日前から雨の心配が。ところが、低い雲を感じながらも、成就地区では天気が崩れず、強い日差しが無く、快適な天候での実施となりました。

講師は当法人の曾我部英司事務局長と、生きもの写真家・北添伸夫さん。ピクニック園地でご参加者に自己紹介を行っていただき、まずはカブトムシドームへ。ちょうど花の見頃を迎えたキレンゲシウムも観察。それからリフトに乗って展望台に到着し、頂上を望むことができました。そして、千本生え・第1園地を経て成就社へ。

途中、ヒヨドリバナで蜜を吸うアサギマダラや、ケクロモジなど、成就の森でおなじみの昆虫や植物を観察しながら歩きました。成就では、昼食後に当法人創立10周年記念に制作した石鎚山紹介DVDを鑑賞。そして、恒例の石鎚山ウルトラクイズを行いました。ウサギの足跡やニホンジカの鹿の子模様についての問題など、皆さんに楽しみな知識を得てもらおうと



キレンゲシウマの花びらは厚めでバナナみたいきたと思います。

そして、登山道を下りながら、ハガクレツリフネの花と実、ブナの大木などを観察。ご参加の皆さんにはそれぞれのペースで、気になることを確認しながらブナの森の自然を味わっていただけたようです。ご参加人数が多く、20人規模とは別のサポート方法が必要と感じ、反省点もありましたが、足を運んでいただいていた自然のふところに接していただく機会づくりを継続していくことの大切さを改めて感じました。

石鎚山紹介DVDを鑑賞中

石鎚山系エコツアーリズム

ブランディング ワークショップに参加!

【期間】平成27年6月6日～9月26日の間に合計7回を開催

【主催】愛媛県石鎚山系エコツアーリズム推進協議会
(事務局・県自然保護課内)

【講師】山内敏功さん(グラフィックデザイナー)／
ピンデザインオフィス代表

【参加者】愛媛県自然保護課、東予地方局、西条市、久万高原町、西条市観光協会、西条商工会議所、市内の企業、団体スタッフ等

このワークショップは、石鎚山系でのエコツアーリズムの推進に欠かせないツールプロダクトの充実のため、石鎚ならではの食料や特産品、アクティビティを検討し、これらの開発につなげることに、石鎚山系エコツアーリズムの魅力を高めることを目的として開催されることになりました。

去る6月6日を初回に、9月26日を最終回と設定。その間に計7回のワークショップが西条市内で開催され、事務局スタッフもそのメンバーとして参加しました。

特に6月21日の第2回は、講師の山内先生の提案で「まずは石鎚を体感しよう!」ということになり、私達森の学校事務局スタッフが当日ご参加の皆様23名を成就地区へご案内。終日、成就地区の自然や歴史、文化、信仰などをお伝えさせていただきました。



神社での作法も宝の一つ



ワークショップを率いる敏功さん



いよいよワークショップの成果が形に!



ワークショップ第2回は成就へ。三十六王子の説明に興味津々

然観察会などで好評をいただいている定番「アトラクシオン」石鎚ウルトラクライズ」も催行!ご参加の皆様とともにクライズ形式にした石鎚山の話題で大いに盛り上がりました。

講師の山内先生はワークショップ初回より、「アイデアは、雑談や笑いの出る空間から生まれる」と話されました。これは当森の学校の曾我部事務局局長も普段からよく口にしています。なので、このワークショップの2回目以降、事務局局長は「難しいことは分からんが、とにかく笑いは取る!」と宣っていました。良かったのかどうか(笑)

ともあれ、7回にわたるワークショップも無事終了。山内先生を先頭に参加メンバーがあっという間に!あっという間に!あっという間に!と時空間を共有した結果、県内初、いや四国初のデザインシンキングによる石鎚山のエンブレム作りと、想定外のエンブレムま

で誕生しました。この紙面上では、残念ながら発表できませんが、来る11月1日、県生涯学習センターで開催予定の「石鎚国定公園指定60周年記念シンポジウム」でお披露目される運びとなりました。この日は、11月1日を「過去を振り返りつつ自然を伝える日」として「えひめ石鎚の日」が制定されることにもなっています。

石鎚山系・瓶ヶ森の瓶壺伝説

石鎚山の神様は、男の神様でお名前を「石鎚比古命・いしづちひこのみこと」といいます。きりりとしたマユで目元の涼やかな美男と伝えられています。その神様のすむ石鎚山の麓の町、西条市は古くから水の都ともよばれ、「うちぬき」というとてもきれいでおいしい自噴水が有名です。

ずーっとむかし・・・、安芸の宮島にすむ女神様、「市杵島姫命・いちきしまひめのみこと」が石鎚山の神様に会いにきました。石鎚山の神様は、海をこえてはるばる会いにきてくれた女神様を、とてもきれいでおいしいお山の水でもてなしました。「女神様、このお水は天の神様が高天原(たかまのほら)で大切におつかいになる、天真名井(あめのまない)のお水です。どうぞ召し上がれ。」

すると女神様は、いたくよこばれ、「天真名井の水でしたら、私の故郷の恋の水です。このお水が石鎚山にあるなんてなんと嬉しいことでしょう。これからは故郷を思い出すたびに、このお山に登ってきます!」



ササ原の広がる瓶ヶ森



伝説のように美しい水をたたえる瓶壺

これをきいた石鎚山の神様は、やさしい笑顔をうかべながら、「石鎚山は大変けわしいお山です。女神様がたびたび登れる山ではありません。でしたら、あの東の山のなだらかな頂(いただき)に大きな瓶を置いて、この水をためることにしましょう」と。そしてこれが、女性らしい山容をもった石鎚山系のひとつ「瓶ヶ森」のいわれとなりました。

石鎚山「お山開き案内人」活動報告

※石鎚国定公園指定60周年記念認定事業／
愛媛県エコツアーリズム推進協議会認定事業

【期間】7月1日(水)～7月9日(木)

【場所】石鎚山7合目成就社境内及びその周辺の園地や登山道

【内容】石鎚山お山開き期間中の7月1日～9日の間、ご希望の時間内でお山の歴史や自然、霊峰としての信仰文化、神社の話などをしながら各所をご案内。(参加料は時間に関係なく1人100円からのチップ制)

【案内人】事務局長 曾我部英司

昨年より開始した石鎚山の「お山開き案内人」活動。今年の活動期間中はほとんど雨天。そんな天候の中、リピーターの方やこの活動に参加することを楽しみに来山された方もいらっしゃいました。また、次年度へ向けて新たな案内人スタッフを養成すべく、レクチャーガイドも実施。来年には女性の「お山開き案内人」が誕生予定です。どうぞ皆様お楽しみに!

さて、今回はご参加頂いた個人や団体のご代表に記していただいている「感想ノート」からお二人のご感想をご紹介します。活動報告にかえさせていただきます。なお、内容はその意を変えない範囲での抜粋になりますことをお許し下さい。

[子供の頃、祖父が山登りが好きでよく石鎚山に登りに来ていました。その頃は、ただ目の前の山道を駆け回るのが楽しく...中略...その祖父はすでに亡くなり、一緒に山登りを楽しむことはもうできませんが、本日案内して頂いている間、雨の森の美しさに感動しながら祖父のことを想っていました。自然と石鎚山を愛する想いが伝わってくるご案内、本当に楽しかったです。雨の森の楽しみ方も知りました。]

またぜひ参加させていただきます。]

[...中略...今回は、大雨でした。木の葉、におい、形、さわる、知る、自然のこと、摂理、信仰のこと、大切なこと、大切にしたいことを教えていただきました。続いていくこと、つないでいくことが少しの山歩きの時間の中にたくさん気付くことができました。...中略...また、ここに来たいと願っています。]

「神社についての知識もそうだなあ」と思いました。知ることで視点がかわり身近に感じる事ができたことは大切なかけがえない出会いです。「文献上の天狗さまの初見が流れ星だった」とうことも美しい蛾に会えたことも今回のすてきな思い出です。ありがとうございました。今度は、「別のルートにも行けたら良いな...」と心から思っています。]

「感想ノート」は、この活動の大切な記録でもあり、事務局の運営の励みとなるお言葉もたくさん寄せられています。読み返しているとこちらが感動してきます。今更ながら、自然って、石鎚山って...素晴らしいですね。ご参加の皆様、有り難うございました。また石鎚山でお会いしましょう!



第15回 産業文化フェスに参加

毎年4~5千人もの来場者がある西条市の一大イベント・産業文化フェスティバルが、4月29日(水・昭和の日)に開催されました。石鎚森の学校も石鎚山をPRするためにブースを構えて5回目。本年は「石鎚山開山1330年と国定公園指定60周年の告知」「二の鎖元トイレの啓発」「森の学校の活動報告」「鎖の展示」「法螺貝体験」「お宮de文化祭PR」などの内容を備え、市民の皆様に触れて感じていただく内容としました。法螺貝体験に来訪してくれる方も年々増え、森の学校が地元



氷点下の雪の森観察会



冬は短時間でしたが吹雪に。皆さん防寒具をしっかりと準備していたため、安全に移動することができました。子どもたちが弱音をはかず、がんばって歩く様子に感心しました。

(愛媛県森林環境税を活用して実施しました。)

「千本生え」保全プロジェクト

紅葉も終盤となった昨年10月26日、成就社の裏手に広がる「千本生え」のスギ林の保全活動を行いました。鶴見武道先生(えひめ千年の森をつくる会会長)と河野強さん(河野建設社長)に例年通りご指導いただき、総勢11人が枝打ちに精を出しました。また、前年までに切り落とした枝を切断・整理する作業と下草刈りも行いました。明るい健康的な林になり、そばを通る際にも見とれてしまいます。作業にはだ



ぶ慣れましたが、慣れによって安全対策がおろそかにならないよう、気を引き締めて継続したいと思います。

恒例!ますますがんばっています